

事業採択後 10 年を経た事業に係わる評価手法選定表
(汚水事業・合流雨水含む)

事業主体	蕨市	事業種別	流域関連公共下水道	処理区	荒川左岸南部
事業費	当初全体計画 29,962 百万円 当初認可計画 4,040 百万円 現行認可計画 29,962 百万円				
計画見直し等の推移	項目	当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整備状況
	処理区域面積	510ha	392ha	510ha	465.8ha
	処理人口	72,600 人	120,000 人	72,600 人	64,610 人
	流入水量	36,430m ³ /日	48,000m ³ /日	36,430m ³ /日	
	管渠延長	184,000m	—	184,000m	166,374m
	ポンプ能力	176.4m ³ /分	454.2m ³ /分	176.4m ³ /分	176.4m ³ /分
	処理場処理能力	—	—	—	—
	汚泥処理能力	—	—	—	—
評価手法の判定項目					
項目	評価				
関連計画及び関連事業の状況	荒川流域別下水道整備総合計画との整合を図りながら、荒川左岸南部流域下水道の関連市町村下水道事業として、鋭意整備を進めている。				
事業の進捗状況	昭和 44 年度に 392ha の事業認可を取得して、事業が開始された本市の下水道事業は、着々と整備が進み、昭和 62 年度には分流区域 118ha の認可拡大を行い、事業の進展を図ってきた。平成 12 年度には合流区域 392ha の整備が完了しており、平成 19 年度末で 465.8ha が整備済みで、整備率は約 91% に至っている。				
地元情勢	地域住民の下水道事業に対する意識は高く、生活環境や居住環境改善のみならず、公共用水域の水質保全や浸水防除など、下水道に対する期待度には高いものがある。				
総合評価					
下水道事業は、順調に推移していると判断され、再評価チェックリストによる評価が妥当である。					

再評価チェックリスト
(汚水事業・合流雨水含む)

事業主体	蕨市	事業種別	流域関連公共下水道	処理区	荒川左岸南部
事業費	当初全体計画 29,962 百万円 当初認可計画 4,040 百万円 現行認可計画 29,962 百万円				
計画見直し等の推移	項目	当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整備状況
	処理区域面積	510ha	392ha	510ha	465.8ha
	処理人口	72,600 人	120,000 人	72,600 人	64,610 人
	流入水量	36,430m ³ /日	48,000m ³ /日	36,430m ³ /日	
	管渠延長	184,000m	—	184,000m	166,374m
	ポンプ能力	176.4m ³ /分	454.2m ³ /分	176.4m ³ /分	176.4m ³ /分
	処理場処理能力	—	—	—	—
	汚泥処理能力	—	—	—	—
項目別評価					
項目		評価			
事業費の推移		・事業計画で予定している事業費を基準に概ね執行している。			
処理場用地の取得状況		—			
施設の供用状況		—			
供用開始区域の接続状況		・供用開始3年経過した区域の接続状況（接続率）は98.4%である。			
地元情勢の変化の有無		・住民の事業に対する理解は得られており、大きな変化はない。			
社会経済状況		・下水道事業を根本的に見直すような社会情勢の変化はない。			
自然環境条件		・現段階での事業を見直すような自然環境条件の大きな変化はない。			
全体計画の変更		・上位計画（流域総合計画）における変化が生じた場合は、随時見直しを行っている。			
費用効果分析		・費用便益比は、3.6である。			
総合評価					
上記評価項目に対し、特に大きな問題はなく、事業は順調に進んでいると判断され、事業の継続に問題はなく、引き続き事業を継続し早期完了を目指す。					

事業採択後 10 年を経た事業に係わる評価手法選定表
(雨水事業・分流区域)

事業主体	蕨市	事業種別	流域関連公共下水道	排水区	錦町第 1・第 2
事業費	当初全体計画 7,834 百万円 当初認可計画 7,834 百万円 現行認可計画 7,834 百万円				
計画見直し等の推移	項目	当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整備状況
	排水区域面積	118ha	117ha	117ha	3.5ha
	降雨強度	55mm/h	55mm/h	55mm/h	55mm/h
	確率年	5年	5年	5年	5年
	管渠延長	17,979m	17,979m	17,979m	589m
	雨水調整池容量	39,600m ³	39,600m ³	39,600m ³	—
	処理場処理能力	—	—	—	—
	汚泥処理能力	—	—	—	—
評価手法の判定項目					
項目	評価				
関連計画及び関連事業の状況	荒川流域別下水道整備総合計画との整合を図りながら、荒川左岸南部流域下水道の関連市町村下水道事業として、鋭意整備を進めている。				
事業の進捗状況	当該排水区を含む国道 17 号線以西の分流区域は、昭和 62 年度に、汚水事業としての認可を取得し、鋭意汚水整備を進めてきたところであるが、土地区画整理事業の進展に伴い、雨水整備の必要性が高まり、平成 16 年度に雨水事業の認可取得を図ったところである。整備に着手してまだ数年であるが、今後、土地区画整理事業の進捗に配慮しつつ鋭意整備を進めていくものである。				
地元情勢	地域住民の下水道事業に対する意識は高く、生活環境や居住環境改善のみならず、公共用水域の水質保全や浸水防除など、下水道に対する期待度には高いものがある。				
総合評価					
分流区域の雨水事業は、その整備が緒に就いたばかりであるが、関連事業並びに地元情勢などに、特に問題はなく、順調に事業が進んでおり、再評価チェックリストによる評価を行うことが妥当である。					

再評価チェックリスト

(雨水事業・分流区域)

事業主体	蕨市	事業種別	流域関連公共下水道	処理区	錦町第1・第2
事業費	当初全体計画 7,834 百万円 当初認可計画 7,834 百万円 現行認可計画 7,834 百万円				
計画見直し等の推移	項目	当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整備状況
	排水区域面積	118ha	117ha	117ha	3.5ha
	降雨強度	55mm/h	55mm/h	55mm/h	55mm/h
	確率年	5年	5年	5年	5年
	管渠延長	17,979m	17,979m	17,979m	589m
	雨水調整池容量	39,600m ³	39,600m ³	39,600m ³	—
	処理場処理能力	—	—	—	—
	汚泥処理能力	—	—	—	—
項目別評価					
項目		評価			
事業費の推移		・今後も幹線整備を中心に事業が進んでいくものと想定される。			
処理場用地の取得状況		—			
施設の供用状況		—			
供用開始区域の接続状況		—			
地元情勢の変化の有無		・住民の事業に対する理解は得られており、大きな変化はない。			
社会経済状況		・下水道事業を根本的に見直すような社会情勢の変化はない。			
自然環境条件		・現段階での事業を見直すような自然環境条件の大きな変化はない。			
全体計画の変更		・上位計画（流域総合計画）における変化が生じた場合は、随時見直しを行っている。			
費用効果分析		・費用便益比は、1.7 である。			
総合評価					
上記評価項目に対し、特に大きな問題はなく、事業は順調に進んでいると判断され、事業の継続に問題はなく、引き続き事業を継続する。					